

中間報告会

「荒川区就学前教育と小学校教育との一層の
円滑な接続を図るための教育課程の
研究・開発委員会」

令和4年度の取組について

令和5年2月1日
荒川区教育委員会

本日の報告

- 1 荒川区教育委員会の取組
 - (1) 研究開発委員会
 - (2) 普及検討委員会
 - (3) 区教育委員会の取組事業等
- 2 成果と今後の取組

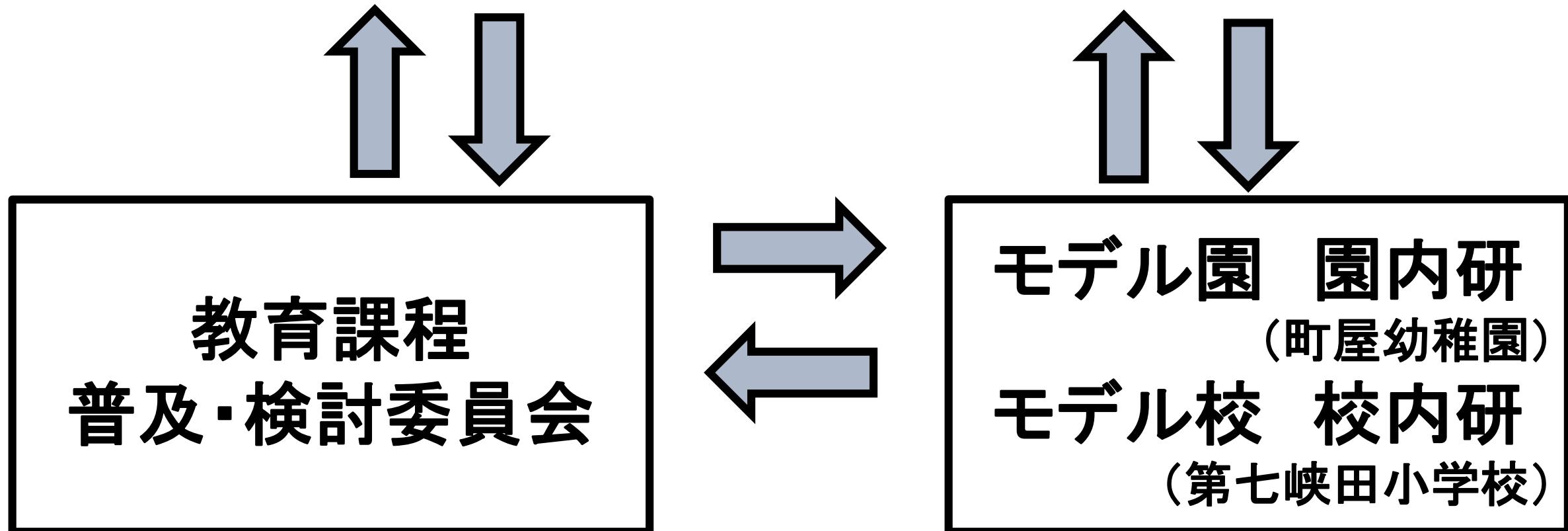
1 荒川区教育委員会の取組

東京都教育庁指導部義務教育指導課 YouTube チャンネル
URL : <https://www.youtube.com/channel/UC0dZqHZ8PVXmLFmMYKDBC4A>



令和4年度の研究組織図

荒川区就学前教育と小学校教育との一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発委員会



(1) 荒川区就学前教育と小学校教育との一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発委員会

ア 目的

「5歳児から小学校低学年までを連続した時期として捉えた指導計画」の修正・改善

イ メンバー

学識者、東京都教育委員会、荒川区教育委員会、荒川区子ども家庭部保育課、公立幼稚園・保育園長、私立幼稚園長、モデル園・モデル校代表 計27名

(2) 教育課程普及・検討委員会

ア 目的

授業実践及び普及

イ メンバー

国語科、算数科、生活科の3分科会

公立幼稚園教員、小学校教員、公立幼稚園長

ウ 取組内容

| | |
|---------|---------------------------------------|
| 第1回 | 委員会及び分科会の発足 |
| 第2回～第4回 | 指導案の検討 |
| 実践授業・保育 | 9月：算数科 10月：国語科（5歳児）、生活科 12月：国語科 |
| 第5回～第6回 | 実践事例集の作成 |

(3) 区教育委員会の取組事業等

ア 幼保小中交流会

- ・保育・教育活動についての共通理解・共通認識を深める。**
- ・児童の学力、スタートカリキュラムの実施状況、園の経営方針、幼児の経験等を共有**

イ 「子どもの育ちや学びについての調査」

目的

就学前教育と小学校教育の一層の円滑な接続を図るための教育課程の研究・開発に資すること

対象

- ・就学前教育施設、小学校の教員、保護者

調査項目

- (1) 生活習慣
- (2) 言葉の理解
- (3) 物の操作
- (4) 数量・図形・測定
- (5) 文字
- (6) 自然
- (7) 思考力、判断力、表現力等
- (8) 学びに向かう力、人間性等

- (項目①～③)
- (項目④～⑦)
- (項目⑧～⑩)
- (項目⑪～⑳)
- (項目㉑～㉗)
- (項目㉘～㉛)
- (項目㉕～㉙)
- (項目㉚～㉔)

教職員の意識と保護者の意識について

特に身に付けることが大切だと思うことについて

| 教職員の意識 | |
|-------------------|--|
| 就学前 施設 5歳児 | 人の話が終わるまで静かに聞く。 きまりやルールを守って、遊んだり活動したりする。 周りの人に挨拶やお礼を言う。 |
| 小学校 第1学年 児童 | 人の話が終わるまで静かに聞く。 きまりやルールを守って、遊んだり活動したりする。 自分の持ちものを整理・整とんする。 |

教職員の意識と保護者の意識について

特に身に付けることが大切だと思うことについて

| | 教職員の意識 | 保護者の意識 |
|------------------|---|--|
| 就学前 施設 5歳児 | きまりやルールを守って、遊んだり活動したりする。 周りの人に挨拶やお礼を言う。 人の話が終わるまで静かに聞く。 | きまりやルールを守って、遊んだり活動したりする。 周りの人に挨拶やお礼を言う。 「おおい・すくない」、「おおきい・ちいさい」など、量に関わる言葉を使う。 |

教職員意識と保護者意識について

特に身に付けることが大切だと思うことについて

| | 教職員の意識 | 保護者の意識 |
|-------------|--|---|
| 小学校 第1学年 | 人の話が終わるまで静かに聞く。 自分の持ちものを整理・整とん する。 | 『一桁』-『一桁』の計算ができる。 カタカナが書ける。 『一桁』+『一桁』の計算ができる。 |
| 児童 | きまりやルールを守って、遊ん だり活動したりする。 | |

5歳児担任と小学校第1学年担任の 子どもの見取りについて

- ・45項目中、31項目で小学校担任が厳しい見取り

2 成果と課題

(1) 成果

ア 教育課程普及・検討委員会での授業実践

→ 連携を強め研究を深めることができた。

イ 教職員意識と保護者意識の把握

→ 教職員意識と保護者意識の実態について分析することができた。

(2) 課題

ア 指導計画の拡大

- ・実践事例の収集**
- ・「ななはけラボ」等の活用事例蓄積**

イ 周知・普及

- ・成果や課題についての、周知及び普及の促進**

ご清聴ありがとうございました。